

○ 高等教育研究者と大学管理者の二足の草鞋びとから

濱名 篤

(学)濱名山手学院 理事長

関西国際大学 学長

大学の設置認可申請や認証評価というのは激務であることはよく知られている。評者は40年近く前に短期大学の設置認可申請からそうした業務に携わり始めた。当時は、そうした業務をして入院する者が出るのも珍しくないと言われている。設置の必要性、教育課程の特徴、入口と出口の見通し、教育環境、教員組織と総合的かつ整合性を持ったシミュレーションをまとめ、ミスが許されない書類にまとめるという、慣れない者が取り組むには難行である。

しかし、真面目にやればこれほどのPBLはないかもしれない。そのプロジェクトが構想通り機能しているか、改善するメカニズムが組織的に機能しているか、実際に改善が図られているかを確認するのが認証評価を含めた質保証の諸事業であろう。そういう意味では設置認可から質保証メカニズムは一連の流れである。

しかしながら、これらの業務は一つの基準だけを見て行えるものではないし、関連業務についての理解がないと難しい。担当者が気づかないような内規や基準による規定や規制について後で指摘を受け慌てた経験は多くの大学関係者に間違いなくあることかと思う。それが『大学設置要覧』としてまとめられていたことが担当者の大きな助けであり、業務バイブルの役割を果たしていた。それが不祥事をきっかけにしてなくなってしまったことは実務を行う担当者には痛手だったことは間違いない。

その空白をかつて設置認可セミナーや関係出版で“荒稼ぎ”(?)してきた地域科学研究会が、文部科学省の理解や協力を得られない中で本書にまとめ上げたことを高く評価したい。WEB上を調べれば出てくるというのは、関連業務や知識をすでに持っている人には可能でも、どのような基準や内規があるかを承知していない大部分の担当者にはつらいセリフである。

高等教育研究者と大学管理者の2足の草鞋を履き、設置審査や認証評価などに申請者と審査側の両方に長く関わって一人として、この分厚い資料集(?)を歓迎したい。それにしてもすごい分量である。

(2020.12.13)